

パブリックコメント概要

意見提出者：19名

■ 意見一覧

No	意見概要
1	中学校統合により通学時間が長くなることを懸念。統合する場合は制服や体操服の見直しなど負担軽減を求める。
2	少人数解消だけでなく保護者や地域の意見を重視すべき。通学負担や地域への影響を懸念し、ICT活用など統合以外の方法も含めた検討を求める。
3	段階統合により複数回の転校が生じる可能性を懸念。大瀬小への統合理由や通学条件の説明不足を指摘し、広域的な統合の検討も提案。小田幼稚園は園児数減少を理由に拙速に廃止せず、在園児の卒園まで存続を求める。給食提供の継続明言や、統合時期については中学校を先行すべき。
4	小田地区に学校をできるだけ長く残すことを望みつつ、統合を行う場合は段階的ではなく、最終的な内子との統合まで含めて一度で完結する形を求める。幼稚園については閉園する場合でも小学校統合と時期を合わせ、少なくとも現在および今後入園予定の子どもが卒園するまで存続することを希望。
5	小田地区に幼稚園と小学校をできるだけ長く残すことを望む一方、やむを得ず統合する場合は大瀬ではなく内子との統合を希望。児童数の少なさや将来的な統合を見据え、小田は内子と一体化させるべきだと考える。
6	小田小学校に通う子どもを持つ保護者として、段階的に大瀬小を経て内子小へ統合する案ではなく、十分な準備期間（少なくとも3年以上）を設けた上で、最初から内子小へ一度で統合することを望んでいる。理由は、児童が在学中に複数回転校する負担を避けるためである。また、統合しても複式学級の解消が短期間にとどまるなら段階的統合の意義は薄いと指摘。さらに、小田小は地域との密接な交流があり、その価値を踏まえて存続を強く希望している。加えて、小田幼稚園についても、廃園となった場合の保護者負担を考慮し、可能な限り長く存続させることを求める。
7	小田小と小田幼稚園に通う子どもを持つ保護者として、幼稚園の存続問題が入園直前に突然提示されたことに強い不信感と不安を感じている。入園を決めた経緯を踏まえ、少なくとも在園児が卒園するまで、もしくは最低でも2年間の存続を求める。また、閉園となる場合は送迎など保護者負担への配慮も必要である。 小学校統合については、大瀬を経由する段階的統合ではなく、内子との統合を見据えて

No	意見概要
	一度で済む形を希望し、子どもが何度も環境変化を強いられることへの負担を懸念している。さらに、学童保育の土曜開所など現在の支援体制の継続も求める。全体として、大人の都合ではなく子どもにとって負担の少ない選択を最優先に慎重な判断を求める。
8	児童数減少により学校統合はやむを得ないと理解しつつも、小田小を大瀬小へ統合する案には反対している。将来的に内子小への統合が見込まれている中で段階的に行う意義は薄く、児童や保護者にとって複数回の統合は大きな負担となるため、最初から内子小へ一度で統合することを提案する。また、小田幼稚園についても入園希望者がいる以上、すぐに閉園せず存続期間の延長を求める。
9	答申により小田地区から小中学校がなくなる可能性に強い懸念を抱いており、小規模校の良さにも目を向けて再検討するよう求める。学校の統廃合が進めば地域の衰退につながると危惧し、内子中心部への集中だけでなく、周辺地域への配慮を求める。
10	小田地区から幼稚園・小中学校がなくなることに強く反対し、学校は地域の存続やアイデンティティを支える重要な存在である。統廃合は若者流出や地域衰退を加速させるため、児童数だけで判断する一律の統合方針を見直し、小規模校の価値を認めた存続支援を求める。また、小規模校には個別指導や強い人間関係など大規模校にはない教育的利点があるとし、その価値を再評価すべきと提言します。具体策として、特認校制度の導入やICTを活用した遠隔授業の充実により、小規模校の魅力を高めつつ多様な学びを実現することを求める。
11	小田幼稚園について、幼児教育を受ける選択肢としての重要性を強調し、単なる人数基準ではなく教育的価値を踏まえた存続検討を求める。少人数ならではの丁寧な教育や地域密着型の環境は、多様な学びの場として重要であり、守るべき。また、全町からの園児募集や課外活動などを活用し、町全体の教育資源として存続・発展させることを提案する。さらに、保護者の意見を最優先とする方針に基づき、十分な対話と合意形成を行うよう強く求める。
12	小田幼稚園と小田小に子どもが通う母親として、2年後の段階的統合案に反対する。児童数減少は理解しているが、小田での存続をできるだけ延ばし、地域行事や交流を通して教育環境の価値を維持したいと考える。複数回の統合は児童や保護者に大きな負担となるため、まず小田で可能な限り存続させ、最終的に内子小への一度の統合を希望。また、小田幼稚園は町内唯一の教育施設として継続を希望し、園外からの入園も含めて園児数を増やす工夫を求める。児童や保護者の負担を最小限にし、納得できる統廃合の実施を強く望む。
13	小田幼稚園に入園する子どもを持つ保護者として、入園時には存続の検討について知らされておらず、不安を感じている。子どもが幼稚園で安心して過ごせるよう、途中で環境が変わらず卒園まで小田幼稚園で学べることを希望し、難しい場合は小田小がある間は存続してほしいと考えている。園児数減少や教員数の減少は理解しているが、少人数ならではの魅力ある教育環境（ABC教室など）を継続・強化すべきである。小学校については、段階的

No	意見概要
	統合（大瀬小→内子小）ではなく、ギリギリまで小田小を存続させ、統廃合が避けられない場合のみ内子小との統合を行う方針を支持し、最終答申にある通り、保護者の意見を最優先にし、子どもに不安や負担が生じないよう慎重な対応を求める。
14	旧小田町の人口が半減する中、地域存続の観点から小中学校の統廃合に強い危機感を示している。小田小は平成 26 年に統合され、新校舎で幼稚園・小・中学校が連携した教育を行っており、少子化対策は全国的課題であるものの、地域活性化のためには学校存続が不可欠。段階的統合（大瀬小→内子小）は児童の発達や通学負担に影響する可能性があるため、統合時期を延ばし、小田地区の教育環境をできるだけ維持してほしい。また、小田分校を含む地域全体での学校運営や地域連携を尊重し、保護者や自治会を交えた懇談会を設けるよう求める。
15	長男と次男を山村留学させた経験から、学校の丁寧な教育と地域の温かい支援が子どもたちの成長に大きく寄与したことを実感しており、同様の環境で三男も育ててほしいと考えている。また、少人数でも一人ひとりにきめ細かく対応してくれる教育環境と地域の協力体制を評価し、できるだけ長くこの小学校で学ばせたいと希望している。
16	令和 7 年の統廃合アンケート後、保護者に十分な相談や議論の機会がないまま、新聞で突然統合の情報を知り、残念な気持ちを抱いている。少人数教育のデメリットだけでなく、統廃合による通学時間の延長や生活リズムへの影響などのデメリットも考慮して議論を進めてほしい。また、通学バスや送迎面での負担を減らすため、デマンドバスや既存ルートを活用など、新しい方法も前向きに検討するよう求める。
17	小田小・中・高校が揃う環境は、地域の魅力であり、子どもたちの成長や自己肯定感を育む重要な教育基盤であると評価。都市部で自信を失った子どもたちが、小田で地域の支えを受けながら成長できた経験を具体的に紹介。統合により小田地区から学校がなくなると、移住先としての魅力低下や若い世代の流出、通学負担による転居、地域人口減少などにつながる可能性がある懸念。校舎設備も整っており、教育環境として十分に活用されていない状態で失うのは地域にとって損失と指摘。その上で、統合が避けられない場合でも、小田地域で子どもたちの学びや地域との関わりを維持できる教育拠点や仕組みを残すことを強く要望し、地域の声を踏まえた慎重な判断を求める。
18	幼稚園については、在園児が卒園するまで存続を希望し、送迎や行事参加の負担を考慮して安心できる教育環境を維持してほしい。小学校については、小田小・大瀬小いずれも児童数が少なく、統合によるメリットは少ないと指摘。可能な限り現状を維持し、将来的に内子小との統合で一度に完結させる方が望ましい。また、学校は地域交流の拠点でもあるため、現状維持を強く希望する。
19	小田小学校の創立 150 周年を祝った直後に、統廃合の報道があり住民は驚きと困惑を感じている。小田地区の幼・小・中・高校が揃う環境は地域の活力や文化の維持に不可欠であり、統合ありきではなく「存続を前提」に考えてほしい。小規模校の特徴として、異年齢交

No	意見概要
	<p>流や地域との連携、伝統行事の継承、住民参加による地域活性化が挙げられ、児童は生き生きと学び成長できる環境であると評価。懸念点としては、通学距離の増加、校舎・施設の活用問題、地域活力の低下、地方分散施策の逆効果、交流授業や合同行事による小規模校同士の連携不足などを指摘。今後も住民の意見を反映した話し合いの場が必要であると強く希望する。</p>